

2017（平成29）年度 京都大学 入試問題 文系 第2問 解答例

問一

宣長の古事記解釈を記した「古事記伝」は、堅固な伝統的価値があるが、現代の読者は宣長とは異なる現代的な文脈において、古事記を読み直しうるし、またその必要があるから。

問二

作品を読むとは、未知と偶然接することであり、何かが否定されつつ創造される深い歴史的経験であるが、専門家は既存の読みを対象に適用することばかり考えるということ。

問三

自己や他者において、同一個人の過去と現在とで作品の読みが変化することは、同時期の自己や他者において、当人と当人以外とでは作品の読みが異なることを、時代や世代に伴う変化と捉えたとみなすこともできるということ。

問四

文学の媒体であることばは人間生活に多く影響され、他の媒体より多義的であるため、読むことには、表現外の意味まで読み取ろうとする点で、本文に書いていないことを主観的に誤って読みこむ可能性が避けがたく予想されるから。

問五

作品を読むということは、未知と偶然接し、読む各個人の内面において何かが否定されつつ創造されてくる経験である。この読みは、個人の通時的な変化と自他の共時的な相違という二つの次元で個人間の諸関係を交叉させつつ、読みの時代的变化を生み出す要因となっているということ。